

## Waseda Vision 150 国際学院の将来構想の進捗状況報告

### 国際教養学部・国際コミュニケーション研究科の将来構想の進捗状況

#### ■ 2013年度報告

##### ≪学部関連≫

##### [1] AO入試改革の実施

2013年度入試から、AO入試（4月入学・国内選考）の面接を廃止し、遠隔地に居住する志願者の負担を軽減するとともに、より多くの志願者を確保するための措置を講じた。果たして、低減傾向にあったAO入試志願者が低減前の水準に回復し、地方からの志願者も大幅に増えた。

##### [2] ライティングを中心とする英語カリキュラムの改革

必修科目である Academic Writing（レベル1～3）について、学部が要求するスキルと学生の英語運用能力を総合的に勘案し、レベル毎の教育内容の見直しを図り、学生のニーズに対応した英語カリキュラムの改修を完了し、2014年度から実施している。

##### [3] 箇所間協定の拡充

11大学との間で締結している学部レベルの箇所間協定校数を拡充し、非英語圏の英語プログラムを中心に学生による留学先選定に際しての選択肢の多様化の検討に着手した。

##### [4] 第二外国語教育の拡充

語学教育検討委員会において、'Plurilingual'能力の育成を基本方針に据え、英語に加え、中国語、フランス、ドイツ語、韓国語、イタリア語、ロシア語、スペイン語等の第二外国語を駆使して世界で活躍できる学生の輩出のために、言語教育のより一層の拡充のための検討に着手した。

##### [5] メジャー制導入に向けた議論の開始

多種多様な科目を自由に履修することで幅広い知識を修得する一方、専攻に準ずる主たる専門領域をもつことで学修成果を対外的に示しやすくすることは、学生のキャリア形成において極めて効果的な措置である。メジャー制導入については、学部将来構想検討委員会において継続的に検討している。

##### [6] 大学の世界展開力強化事業（AIMSプログラム）の採択（2013年度～2017年度）

本学とASEAN主要6大学（マラヤ大学、インドネシア大学、チュラーロンコーン大学、タマサート大学、デ・ラ・サール大学及びブルネイ・ダルサラーム大学）で構成されたコンソーシアムによる、フィールドワークやインターンシップ等を組み込んだ学生交流プログラム（「多言語・多文化共生プログラム」）が採択された。事業開始から5年間で派遣100名、受入75名にのぼる学部生の交流を実現させる。交付金総額は約2億円。

##### ≪大学院関連≫

##### [1] 国際コミュニケーション研究科修士課程の設置

2013年4月1日に開設した。2013年度は入学定員50名に対し、4月・9月入学合わせて240名余りの志願者があり、入学者も78名となった。開設2年目の2014年度も270名を超える志願者があり、学生募集は順調に進んでいる。また、2014年4月現在の在学

生の出身は、20 か国・地域にわたり、多様な文化的背景をもつ学生の確保という、開設当初の目標が達成されている。

## [2] 箇所間協定先の開拓

国際コミュニケーション研究科との大学院レベルでの協定締結先の開拓に着手した。

## ■2014年度計画

### 《学部関連》

#### [1] 入試制度の抜本的改革

##### ○一般入試の見直し

語学能力、客観的知識、暗記力だけでなく、論理的思考力や表現力のある学生の確保をめざして、現行の英語・国語・選択科目（数学・世界史・日本史）を英語・国語・小論文に変更。小論文においてはテーマを自然科学、世界史、日本史から選択させ、それぞれ与えられたキーワードを使用して文章を作成させる形式などを検討する。本年度中に入試科目の変更の予告・公表を行う。

##### ○英語能力試験の導入

IELTS, TOEFL, TEAP での代用・併用の検討。

##### ○AO 入試改革の実施

AO（国内）入試制度の抜本の見直し。AO(国内)入試（募集枠 125）から筆記試験を廃止して、書類審査+面接とし、AO（海外）入試制度との同一化を図り、将来的には国内・海外の区別を排する。現在、AO（海外）入試では IB、SAT、GCSE、Abitur、高考、KSAT などが筆記試験の代わりに利用されているが、今後は、日本でも広がりつつある IB、将来、導入の可能性のある「達成度テスト」の結果を元に、高校の GPA、TOEFL、IELTS、TEAP、英検等の英語能力試験の結果、活動記録、志望動機・学習計画のエッセイを加えて総合的に判断する選考方法を検討する。

#### [2] 海外学生リクルート

学部定員に対する正規留学生比 3 分の 1 の目標値は一時それを下回った後、昨年度、回復することができた。今後、優れた留学生を安定的に確保し続けるために、留学生の出身国のさらなる多様化を図り、海外学生リクルートの戦略を見直す。

○米国東海岸・西海岸、ハワイ、グアム、サイパン、カナダ、経済発展の著しいトルコ、海外の大学教育も奨学金の対象となるスカンジナビア諸国、経済的富裕層の多い西ヨーロッパでのリクルート活動を活発にする。

○リクルート担当を入試担当と切りはなし、国内・国外のリクルートに特化した活動を行う専門官を配置する。

○日本語の課程を設ける中等教育機関、日本語の教員や日本語教育の学会や部会、IB Japanese 実施校の日本語、日本文学の教員とネットワークを構築し、日本語学習者に学部情報の提供を行う。

○現地稲門会とのネットワーク構築

○各地の大使館・領事館、また、日本語や日本文化にかかわる団体との連絡網を構築し、同じく情報を提供する。

○在学生出身高校のカウンセラーとの関係構築及び周辺情報の獲得

○CIS (Council of International Schools), OACAS (Overseas Association for College Admission Counseling) への加盟及び関連するリクルートイベントへの参加。

### [3] メジャー制導入(継続)

- 学部将来構想検討委員会において継続的に検討しており、2014年6月には原案が策定される予定。将来的には、メジャー制導入に合わせたクラスター(科目群)の改編(現行: Science and Nature; History, Philosophy and Religion; Governance and International Relations; Economy and Business; Communication and Language; Expression and Arts; Culture, Society, Mind and Body)も検討課題になる。
- メジャー制導入にあたっては、カリキュラムの再構築や人的資源の拡充が必要となるため、教員基礎数の提示数を念頭に入れた中長期の教員人事計画を検討している。

### [4] オナーズ・プログラムの設置

入学試験の成績+1年の成績上位5%(約35名)、GPA3.75以上、Global Leadership Fellows Program、AIMS7交流プログラム、イェール、コロンビア、オックスフォードなど特別なISAプログラム等への参加、ダブル・メジャーの選択、オナーズ・プログラムのための特別カリキュラム・インターンシップ・チューター制度、オナーズ・プログラム修了証書、旧3.5年卒業制度との交代等に関する検討。

### [5] 箇所間協定の拡充(継続)

現在の11の大学との箇所間協定に加えて、非英語圏の優れた英語プログラムとの箇所間協定を増やすべく現在、交渉中。英語での学習を継続しつつ、ブルーリリングアルを目標に留学先の現地語の習得をめざす。

<箇所間協定締結予定大学>

College of Liberal Arts (デ・ラ・サール大学)、Faculty of Arts and Social Sciences (マラヤ大学)、College of Liberal Arts and Social Sciences (香港市立大学)、School of Journalism and Communication (香港中文大学)、Department of Journalism (香港バプティスト大学)、St. Stephen's College (ニューデリー大学)、School of International Studies (ドレスデン工科大学)、Vesalius College (ブリュッセル自由大学)、LUISS グイド・カルリ大学、BA Liberal Arts (キングス・カレッジ ロンドン大学)、Faculty of Liberal Arts (ルンド大学)、BA Liberal Arts (タリン大学)

なお、国際学術院とケンブリッジ大学 Faculty of East Asia and Middle Eastern Studies 間での研究交流協定締結の手続も進めている。

### [6] 大学の世界展開力強化事業 (AIMS プログラム) による学生交流の開始

- 2014年度は学生交流の最初の実施年にあたる。2014年9月からは早大生の派遣が、2015年4月からはASEAN主要6大学の学生の受入れが開始される。本プログラムは3学期にまたがるカリキュラム(留学期間は1学期間)を提供するものであり、現在は派遣・受入学生の選考プロセスの検討のほか、留学前後の教育プログラムの構築を整備しているところである。2014年度の交付金は約4,500万円。
- 本事業の採択を契機に、東南アジア諸国の英語プログラム、また、欧州のリベラルアーツ系英語プログラムとの連携をめざす。

### [7] 第二外国語教育の拡充(継続)

ブルーリリングアルをめざすための第二外国語教育、留学期間を含め4年間継続して言語習得が行えるシステムの構築、ヨーロッパ系第二外国語科目の教育言語をすべて英語にする、外国語科目・当該言語による講義科目・英語による当該言語、また、当該地域に関する講義科目の組合せ

## ≪大学院関連≫

### [1] 国際コミュニケーション研究科博士後期課程の設置(2015年4月1日予定)

2014年4月に国際コミュニケーション研究科博士後期課程設置の届け出を完了した。  
2014年度は修士課程の完成年度であるとともに、博士後期課程の開設準備のための年度でもあり、双方の教学及び学生生活上の環境整備を進めている。

### [2] 大学院4年プログラムの設置

2018年博士後期課程完成年度に向けて、修士1年+博士3年プログラム設置の検討。

### [3] 大学院生の研究・教育への参画及び奨学金制度の拡充

大学院生、とりわけ、博士後期課程の学生の研究・教育への参加の拡充 奨学金+研究・教育による賃金の獲得 (教育・研究に関する雇用契約を結んでいたかどうかに関わる国際比較 日本5%、アメリカ56%、イギリス33%、ドイツ62%) についての検討。

### [4] 海外の大学院との連携強化

博士後期課程の設置に合わせて、海外の大学院との連携を本格的にスタートする。

○ロンドン大学 SOAS (東洋アフリカ研究学院) とのダブル・ディグリー (Double MAs) 協定

○復旦大学 MSc Double Degree in Global Media and Communication への参加 (LSE SciencesPo, Paris との Dual Degree Program への拡大)

○ケント大学二都プログラム(Brussels School of International Studies, University of Kent, School of Public and International Affairs on Virginia Tech's National Capital Region Campus, Chinese Foreign Affairs University in Beijing, University of Brasilia)

○モントレー国際大学院 Monterey Institute of International Studies との大学・大学院 6年トリプル・ディグリー・プログラム(SILS at Waseda University3年+Monterey Institute2年+GSICCS1年) 1MA+2Mas

○香港バプティスト大学 Department of Journalism

○台湾政治大学

International Master's Program in International Communication Studies (IMICS)

### [5] 附置研究所設置

国際コミュニケーション研究科に附属する研究所として、コミュニケーション研究センター (インターパーソナル・コミュニケーション: 言語・言語教育・外国語・通訳・翻訳 / メディア / カルチュラル・スタディーズ / パブリック・リレーションズ / インターナショナル・リレーションズ) 設置の可能性についての検討。

### [6] 紀要編集・出版体制の充実

学部紀要 Waseda Global Forum を完全デジタル化し、印刷にかかる費用を査読費用に廻す等の措置を講じることで査読体制を整え、編集委員会に学内外の研究者・有識者を入れて再編成し、内外共に認められる査読誌とする。国際コミュニケーション研究科に、同じく完全デジタル版の紀要「コミュニケーション研究 (仮称)」を立ちあげる。

以上